

写真パネル展「廃虚に生きる」を開催

広島平和記念資料館では被爆の全体像を解明するため、原爆被災写真を継続して収集し、アメリカ国立公文書館からも数多くの写真を収集しています。

今回の展示ではアメリカ国立公文書館から収集した写真を中心に、廃虚に生きる人々の姿を紹介します。その姿から人々の思いを感じ、原爆の悲惨さと困難に耐えながら生き抜こうとする人々の努力を考えていただければと思います。

1 期間

令和4年(2022年)3月7日(月)～3月21日(月・祝)

2 会場

東館1階 企画展示室

3 展示内容

(1) はじめに

(2) 被爆1カ月後の広島

アメリカ海軍の従軍カメラマンとして9月上旬ごろに広島に入ったウェイン・ミラー氏が撮影した写真を中心に、救護所に收容された人々や原爆犠牲者の供養に集まった人々の姿を紹介し、被爆1カ月後の広島の人々の様子を伝えます。

(3) 焼け跡の日々

アメリカ軍が撮影した建造物や都市基盤の破壊に焦点をあてた写真の中で、生き残った人々が焼け跡から再び立ち上がろうとする様子が見える写真を紹介し、厳しい環境に直面しながらも人々が懸命に毎日を生きようとする姿を伝えます。

4 展示点数

写真パネル、現物資料など約120点

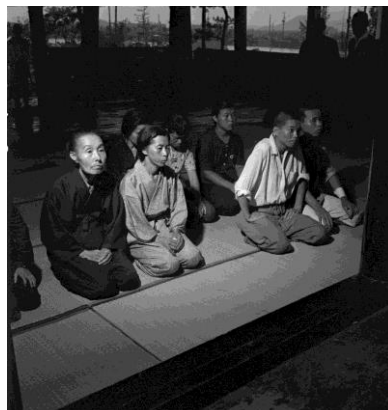
5 入場料

無料

◎「被爆1カ月後の広島」のコーナーの展示写真の中から



母と子



本堂に集まった家族
爆心地から1,770m 比治山本町

◎「焼け跡の日々」のコーナーの展示写真の中から



崩れた建物の一部を利用して造られたバラック
1945年(昭和20年)11月4日
爆心地から1,320m 千田町一丁目



市内電車を待つ人々
1945年(昭和20年)10月27日
爆心地から230m 紙屋町



がれきの中で子どもを背負い
洗濯する女性
1945年(昭和20年)10月～12月



壁のない校舎の中で
1945年(昭和20年)10月31日
爆心地から2,600m 南千田町